

ラジオNIKKEI ■放送 毎週木曜日 21:00~21:15

# マルホ皮膚科セミナー

2014年5月1日放送

## 「第77回日本皮膚科学会東部支部学術大会①

大会を終えて」

自治医科大学 皮膚科  
教授 大槻 マミ太郎

### はじめに

本日は、2013年9月21日と22日の両日、さいたま市の大宮ソニックシティで開催された、第77回日本皮膚科学会東部支部学術大会について、会長を務めた自治医科大学の大槻より、ご報告いたします。

東部支部としては“喜寿”にあたる記念すべき学会において、東部支部はもとより、全国から皮膚科医ならびに皮膚科学に関係する皆さまを多数お迎えできたことを、あらためて感謝申し上げます。

自治医科大学が担当するのは、平成6年の第58回大会を、矢尾板英夫教授が担当して以来19年ぶりで、当時は宇都宮開催でしたが、今回は首都圏および全国各地から参加される皆さまのアクセスとともに、2001年に皮膚科が常設された自治医大さいたま医療センターからの学会企画も考慮し、大宮ソニックシティでの開催を決めました。

The 77th Annual Meeting of the Eastern Division of JDA  
**第77回日本皮膚科学会  
東部支部学術大会**  
Skin, behind and beyond ~結集! 皮膚科の英知~  
会期 2013年9月21日・22日 会場 大宮ソニックシティ  
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5  
会長 大槻 マミ太郎  
(自治医科大学皮膚科学講座)  
特別講師: 村田 哲 (自治医科大学 皮膚科(佐藤))  
主催: 自治医科大学皮膚科学講座  
〒330-8501 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5  
TEL: 028-55-7890 (主線) FAX: 0285-44-4857  
特別協賛: 株式会社オフィステイワン  
〒464-0202 愛知県名古屋市中区栄2-1-1  
TEL: 052-455-5145 FAX: 052-451-5195  
E-mail: info@office1wan.com  
URL: http://www.o1s.co.jp/nav/057/

## テーマは「**Skin, behind and beyond**～結集！皮膚科の英知～」

学会のテーマは、「Skin, behind and beyond～結集！皮膚科の英知～」としました。皮膚は薄い臓器で、「皮相の見」という言葉がありますが、うわべを見るだけでなく、その背後に隠れたものや奥に潜むものを見据え、皮膚を超えた全身的な治療を行うには、経験ある皮膚科医の英知が必要です。若手の先生には、**behind**、そして **beyond** まで見とおす眼力を育んでもらいたい、と願う意味を込めました。また、学会ロゴは、ダーモスコピーと顕微鏡を駆使し、ピアノを弾くサルを、日光の三猿になぞらえたモチーフとして作りました。

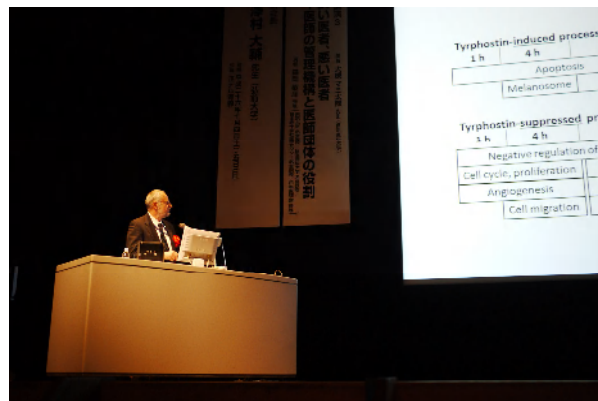
招待講演は、ニューヨーク大学で皮膚科学と分子生物学の研究に長年貢献し、日本との交流も深い **Miroslav Blumenberg** 先生に、『**skinomics**』というタイトルで、そしてテロメア研究の第一人者である京大生命科学研究科の石川冬木先生に、『テロメアストレスと細胞老化』というタイトルでお願いしました。

**Skinomics** は、今大流行のアベノミクスになぞらえたものではなく、**genomics** に近い造語であり、皮膚の様々な細胞、分子、遺伝子についての膨大なデータを今後どのように処理、活用していくかについて、講演していただきました。また、自治医大関連の基礎研究分野から、小林英司先生と花園豊先生のお二人に、iPS細胞を含めた再生医療研究について、最先端の内容をご紹介いただきました。

医療以外の分野からも、お二人の方に特別講演を依頼しました。

まず、元客室乗務員で気象予報士、健康社会学者で東京大学非常勤講師、と多彩な経歴を持つ河合薫氏です。河合氏がレギュラー出演しているラジオ番組を車通勤中に聴いているうち、男女比が逆転しそうな皮膚科の将来について、健康社会学的観点から提言をしていただこうと決めました。河合氏にはあらかじめ「皮膚科医のメンターとメンティー」の小冊子をお渡ししており、組織における上司と部下、そして男女の力学について、刺激的なお話をしていただきました。講演に引き続いて、皮膚科の女性医師の会が開催されました。

もう1名は「坂田ジュニアゴルフ塾」を主宰し、名指導者としても知られるプロゴルファー坂田信弘氏です。坂田氏原作の成年コミック誌の人気漫画『風の大地』は、私が米国留学した頃に連載が開始されており、以後20年以上にわたって、私はこの漫画に散りばめられた人生訓に励まされ、癒されて学会を迎えました。これからの皮膚科の英才教育のあり方を、坂田流の指導や哲学の話とともに一緒に考えてみたいと思って企画しましたが、内容的には目頭が熱くなるもので、坂田氏の巧みな話しぶりも印象的でした。



## Visual Dermatology のアーカイブ特別企画

本学会のセッションの目玉は、2002 年以来、私自身も編集委員として参画している、学研メディカル秀潤社の定期刊行誌、Visual Dermatology のアーカイブ特別企画です。

2002 年 4 月に創刊された Visual Dermatology も、早いものでもう 10 周年を過ぎました。創刊時から続く企画に加え、新しいコーナーや新しい編集企画シリーズも生まれ、オールカラー掲載の見やすさと、筆者の主張を前面に出すという斬新さ、そして日常診療によくみる疾患を取り上げていることで、読者から幅広く支持されていると感じています。

今回の特別企画は、Visual Dermatology Archives ベストセレクションと題して、座長に中村晃一郎先生と金子健彦先生を、演者に編集委員長の大原國章先生、そして編集委員の塩原哲夫先生、松永佳世子先生、江藤隆史先生をお迎えし、それに私を加えた 5 名の演者それぞれから、①最も自信作といえる責任編集号とそのエッセンス、②過去に掲載した各施設の症例から選ぶマイベストの数例、③10 年以上に及ぶ長期経過観察症例「common disease の行く末」についてご紹介いただきました。

また、読者から解答が寄せられるコーナーである『Your Diagnosis』の中から、常深祐一郎先生、村田哲先生が厳選したベストセレクションや、難度の高かった症例についても、時間の許す限り提示していただきました。このセッションでは、蓋を開けるまで、何が出てくるかわからない面白さや、編集委員同士の突っ込みやかけ合いを、堪能してもらえたのではないかと感じています。なお、毎号病理のコーナーを担当していただいている今山修平先生からは、単独の教育講演を別にお願ひし、大変好評を得ました。

## その他の企画

さて、今回の学会でぜひ皆さんに知っていただきたいかったことの一つに、自治医科大学の特殊性があります。これを聞くと皆さん驚かれるのですが、自治医大では実に 33 年間の長きにわたって、卒業生の皮膚科への入局者がありません。卒業生に原則 9 年間、義務化されている地域医療への貢献において、皮膚科の素養は相当の重きを占めるはずですが、何十年にもわたって与えるばかりで、見返りが無い悔しさとやるせなさを、会長講演と卒業生サテライト企画にぶつけたつもりです。

これら以外の企画としては、自治医大さいたま医療センター企画として、出光俊郎先生に『症例から学ぶ教訓』というタイトルで、想定外の展開を見せたピットフォールの症例を中心に、まさに“behind and beyond”という学会テーマにつながるセッションをお願いしました。皮膚科研究の分野からは、大阪大学遺伝子治療学の玉井克人先生、そして皮膚外科の分野からは、筑波大学の中村泰大先生、また褥瘡やフットケアなどに対するチーム医療について、桐生厚生総合病院の岡田克之先生にオーガナイザーになっていただきました。チーム医療のセッションは、公開シンポジウムとして、看護師やパラメディカルの方の参加も広く募集しました。これらのセッションは、それぞれ当科のスタッフから小宮根、前川、村田の各先生にサポートをしてもらいました。また、スナップ診断や皮膚縫合につ

いて、日常診療に役立つ教育講演も企画しました。

さて、本学会のもう1つのユニークな出し物として、赴任以来学内の同好会顧問を務め、院内コンサートも定期開催している、ピアノがあります。ピアノとの対話がなければ、私にとっての今は存在しなかったかもしれません。長い間かけて完成した自作のテーマ曲を、セッション開始のイントロとしてチャイム代わりに、あるいはBGMとして使わせていただきました。また、会長講演の最後の10分間で、震災支援のスライドを流しながら、真の復興への祈りを込めて、ピアノソロ「花は咲く」を弾きました。これは、東日本大震災で被災した東部支部内各県に対し、日本皮膚科学会主導で行なった復興支援活動が基盤となっており、ピアニスト辻井伸行氏が編曲されたものを、さらに私自身手を加えて長編化したものです。



今回の学会は、大宮開催となったこともあり、宇都宮がどこにも見当たらないと言われぬよう、懇親会では餃子全国消費量1、2を争う浜松との屋台対決を用意しました。残念ながら、宇都宮は浜松に惨敗する結果となりましたが、楽しめる企画だったのではないかと思います。

### おわりに

学会参加者数は1,100名を超え、プログラム集も学会ロゴ入りバッグも底をついてしまう大盛況で、東部支部としては画期的な学会となりましたことを今あらためて感謝申し上げますとともに、事務局担当ならびに事務局を支えて下さった教室員、学会を支援していただいた同門会や栃木地方会の先生に、厚く御礼申し上げます。